

臨床実習、「学生用電子カルテ」も用意◆福井大学Vol.2

教員の負担軽減、実習の充実を目指す

スペシャル企画 2016年11月21日(月)配信 橋本佳子 (m3.com編集長)

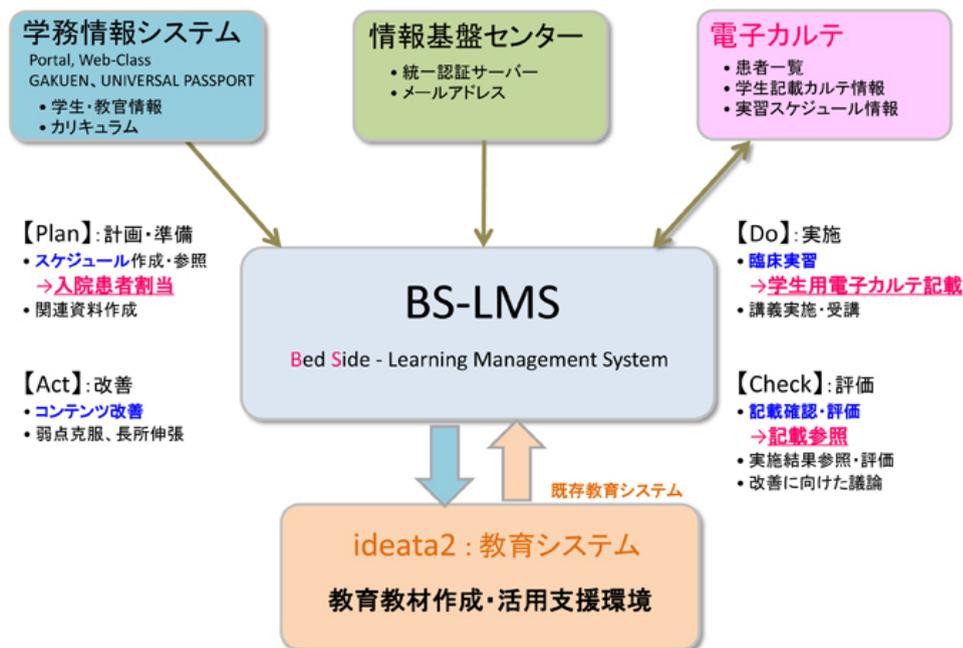
「臨床実習への同意が取れた患者とそうでない患者がいる。その記録を残し、どのように医学生に割り振り、担当してもらうか。各医学生が既に学んだ症例と、未経験の症例と照らし合わせながら、アサインする作業は非常に大変」

「学生が個々の症例の臨床実習を通して何を学んだのか。病院で運用しているカルテのデータは参照しつつも、『学生用カルテ』を用意して実際に記載してもらわないと、真に診療参加型の臨床実習にはなりにくい」

「どの診療科で、どんな症例を担当し、どんな医行為をしたのか、あるいは未経験の症例は何かなどを記録として確実に残していかないと、医学生一人一人の評価やフィードバックができない」

「2023年問題」に対応し、診療参加型の臨床実習を「72時間以上」実施するためには、カリキュラムを見直すだけでなく、運用上、さまざまな手間、困難が生じ、書類業務も膨大になる。この問題を解決するために、福井大学が開発を進めているのが、BS-LMS(Bed Side-Learning Management System)だ。数年前から開発を始め、2017年度から試行的運用を開始する予定だ。2016年度入学の1年生から、新カリキュラムを適用しており、臨床実習に入る2019年度からの本格稼働を目指す。

BS-LMSの開発を担当する、福井大学病態解析医学講座放射線医学領域教授の木村浩彦氏は、「当大学の医学教育改革は必ずしも進んでいわけではないが、BS-LMSは他の大学にない先進的なシステム」と誇る。「臨床実習の時間数が増えれば、教員の負担は重くなる。それをいかに軽減するかが重要。BS-LMSを用いれば、教員の準備や学生の評価などの負担が軽減される。学生自身にとってのメリットも大きく、臨床実習では何が求められるかが明確になり、どんな症例を経験し、どこまで学習したかが記録として残るため、学生自身の振り返りが容易になる。このようなアクティブラーニングを支援、後押しできるシステムにしたいと考えている」(木村氏)。



3

福井大学のBS-LMSの概要 (図提供: 木村氏)

教員とのチャット機能も検討

BS-LMSは、学務情報システム(学生・教員情報、カリキュラムの内容など)、電子カルテ(患者一覧、学生記載カルテ情報、実習スケジュール情報など)、情報基盤センター(統一認証サーバー、メールアドレス)など、各種関連システムと連動させる。その際、患者の同意の有無、学生の患者情報の閲覧・記載の設定など、患者のプライバシーには十分に配慮する。

BS-LMSの活用で、(1) 教員等による臨床実習スケジュールリング（どの学生に、どの患者を割り当てるか）、(2) 学生による電子カルテ記載（学生は、許可された患者について、学生用電子カルテに記載）、ポートフォリオ作成、(3) 教員による学生用電子カルテ参照・評価（学生の記載内容に対して、指導教官がコメント記入）——などが可能になると想定している。

(2) のカルテは、大学病院で用いている本番用、学生が閲覧できる参照用、学生が記入できる学生用と三つに分かれる。学生は、自分が担当した患者について学生用電子カルテに記載でき、検査のオーダーなども可能だ。BS-LMSには、学生が記入した内容を教員に転送する機能があり、教員は学生がどんな処置をしたかなどを確認し、評価することができる。「チャット機能も付けて、『なぜこうした対応をしたのか』など、教員と学生が本音でやり取りできる機能も付ける予定だ」（木村氏）。



福井大病態解析医学講座放射線医学領域教授の木村浩彦氏。

BS-LMSに先んじて、福井大学では2008年度から画像関連の教育システムの構築が進んでおり、木村氏の専門の放射線領域では、学生が知っておくべき画像症例を集めた「放射線科100選」をデータベース化している。各症例には、簡単な現病歴や身体所見、治療歴などが記載されており、学生は自ら経験した症例、あるいは未経験症例を自習することができる。本システムもBS-LMSと連動させ、今後拡充予定だ。

さらに、学生の臨床実習の記録が蓄積されれば、個々の学生だけでなく学年全体の評価なども可能になる。「学年全体の臨床実習等の状況を評価することで、実習カリキュラムは十分なのか、どんな改善をすればいいのかなども見えてくるだろう。そこまで発展させることができれば、理想的だと考えている」（木村氏）。

【掲載スケジュール】

- Vol.1 「教育こそ、我々大学人の使命」
- Vol.2 臨床実習、「学生用電子カルテ」も用意
- Vol.3 医学生の成績、データベース化

シリーズ [改革進む医学教育](#) »